

ミ フネ マチ
御船町



藤木 正幸 町長

御船町は熊本、そして九州のほぼ中心に位置しており、3つのICを有し、県内外への交通アクセスもよく、壮大な高原や水源がある自然あふれる豊かな町です。

本町の将来像「みんながわくわくする御船町」の実現のために、子育て環境等の充実を図り、住みやすさNO.1のまちづくりを目指していきます。ご興味をもっていただける企業様からのご支援を心よりお待ちしております。

- 寄付御礼**
- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額10万円以上)
 - ・感謝状贈呈(寄付額10万円以上) ・地公体広報誌掲載 ・HP掲載 ・視察受入
 - ・功労者表彰推薦 ・紺綬褒章推薦(寄付額1,000万円以上)
 - ・その他

人口	面積	産業構造
総人口……16,303人 男……7,762人 女……8,541人 世帯数……6,196世帯	総面積……99.03km ² 農用地……13.20km ² (13.3%) 森林……55.68km ² (56.2%) 宅地……4.26km ² (4.3%)	第1次産業……2,198(4.5%) 第2次産業……11,764(23.9%) 第3次産業……35,203(71.6%) <small>生産総額:百万円</small>
人口構成比	教育機関	高等教育機関
15歳未満……13.8% 15～64歳……51.2% 65歳以上……35.0%	小学校……6校 中学校……1校 高等学校・高専……1校 大学・専門学校他……1校	熊本県立御船高校 (普通科/専門学科)



交通アクセス

- 御船町役場まで
- 九州自動車道 御船ICから……約4km
- JR 熊本駅から……約14km

※データは令和4年7月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

御船町まち・ひと・しごと創生推進計画

みんながわくわくする御船町

(SDGs)関連するゴール



1 基本目標 御船の特性を活かした魅力ある雇用の場を創出する
企業誘致を推進することで、新たな雇用の創出に繋がります。

2 基本目標 御船の素材を活かし、新たなひとの流れをつくる
豊かな自然に囲まれ、地域や家族の結びつきを大切にしたい御船暮らしを押し出し、地域資源を活かして観光客を引き込み、更なるひとの流れをつくりたい。

3 基本目標 御船で縁を結び、子育てしていく希望をかなえる
子育て支援制度、地域での子育てサポート体制等の充実、教育施設へのICT機器の導入など、子育てしやすい環境づくりの充実を図ります。

4 基本目標 住みやすさNo.1を目指した住民主体による地域づくり
地域が抱える課題や状況を踏まえながら、地域の特性を活かし、地域の人材や地域に関わりのある人達と共働してまちづくりを進めます。

御船町

新しい民間企業の技術・ノウハウを積極的に活用したい政策課題・取り組み

1 雇用環境の創出

御船インターチェンジ周辺の産業集積地域「COLAS MIFUNE」へ複数の企業様がまとまって立地したことで、町に活力が生まれました。今後も企業様とさらに連携を深め土地を利活用することで、企業誘致を推進します。



御船IC周辺のCOLAS MIFUNE

企業様へ
本町は交通利便性が非常に優れており、中心部で交差する国道沿線は、開発に適した場所です。企業様からのアドバイスや支援をお願いします。

2 御船町の将来を照らす 移住定住の促進

地方部の大きな課題である山間地域の人口減少の波を食い止め、御船町の更なる発展を目的として、移住相談会や空き家利活用等を実施し、平坦地域と山間地域の両地域を取り残さない移住・定住に向けた取組を実施しています。



御船町に移住されて笑顔あふれるご家族

企業様へ
3つのICがある抜群の立地・コンパクトなまちづくり・豊かな自然の3つを兼ね備えた∞の可能性を持つ御船町の応援をお願いします。

3 心ゆたかに健やかに育つまち

年々子育てに係る費用が増加していることから、保護者の負担を軽減し、子どもの健やかな成長を促すための新たな子育て支援対策の推進が必要となっています。



元気いっぱい!

企業様へ
子どもの医療費を無償とすることで、子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもの健やかな成長を促していきます。企業様からのご支援をお願いします。

4 縁の下の力持ち!!生活を支える公共交通の充実

主に山間地域における人口減少や高齢者の運転免許証返納など、地域公共交通を取り巻く厳しい環境の中、誰もが「おでかけ」することができる環境を構築するため、地域公共交通の再編に取り組んでいます。



御船町のバス停

企業様へ
地域公共交通の利便性を高め、誰もが「おでかけ」することができる活力あるまちづくりを目指すためのご支援をお願いします。

重点
プロジェクト

縁の下の力持ち!!
生活を支える
公共交通の充実

(SDGs)関連するゴール



背景
・
現状の
課題

近年の人口減少や熊本地震による被災、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの様々な要因を受け、御船町の地域公共交通の利用者数は年々減少傾向にあります。交通事業者においても運転士不足が深刻化しており、需要と供給の両面から影響を受けています。御船町のまちづくりに向け、より効率かつ利便性の高い地域公共交通サービスの提供が急務となっています。

- ①町民の約半数がバスを利用したことがない状況であることから、地域公共交通に対する関心が低下しております。
- ②地域公共交通空白地域の存在により、外出が困難な町民が存在しています。



みふねバスフェスタ2022

地域公共交通の利用者数が減少傾向にある中、今後も町民の生活にとって必要な移動手段を確保していくために、町の地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークとして、高齢者等をはじめとした誰もが「おでかけ」する手段を享受できる環境を構築する必要があります。

町の最上位計画である第6期御船町総合計画の基本理念である「人をつなぐまちづくり」、「魅力をつなぐまちづくり」、「未来につなぐまちづくり」をもとに「みんながわくわくする御船町」を実現するために、縁の下から支える地域公共交通の再編を推進します。

事業の
目的
・
内容

- ①交通結節拠点の整備及びバス停の待合環境整備を行うとともに、御船町の公共交通情報を積極的にPRし、町民の地域公共交通への関心度を高めていきます。
- ②コミュニティバスの運行見直しに伴う予約型乗合タクシーの導入を行うなど、地域公共交通の空白地域の解消に努め、だれもが「おでかけ」できる手段を提供します。



バスへの試乗の様子

寄附の
具体的な
メリット

よりよい地域公共交通を実現することは、住民サービスの向上だけでなく、観光分野・福祉分野等の様々な分野にとって良い影響を与えることができます。企業様と行政の連携によるまちづくりを進めるためご協力をお願いします。

重点
プロジェクト

安心で安全な
子どもの活動環境づくり

(SDGs)関連するゴール



総事業費

— 寄附目標額 —

数値目標

- 令和6年4月認定こども園の開園 …… 1園
- 令和6年4月子どもの居場所の開設 … 1施設

背景
・
現状の
課題

- ①近年の社会情勢の変化や町内の開発等の影響により人口(児童数)は増加傾向にあります。そのため、町内保育所等の入所が困難となり、町外保育所に50名ほどの児童が在籍しています。
- ②学校に居場所を感じられない不登校児童が年々増加しています。(令和4年度中学生1%小学生0.3%)

- ①児童及び保護者に対し、安心で安全な保育環境を提供することで、育児及び就労に支障をきたさぬよう、保育環境の整備が必要となります。
- ②家庭や学校に居場所のない子どもが、安心して過ごせる拠点を提供する必要があります。



子育てふれあい館

事業の
目的
・
内容

- ①町内すべての児童が町内保育所に入所できるよう保育環境を整備することで、保護者の働き方や子育て環境を改善し、地域全体の子育て支援体制を構築することで子どもたちの健やかな成長を支援することを目的とします。
- ②居場所のない子どもに、安心して過ごせる居場所を提供することで、子どもが安心して健やかに育ち、社会復帰や自立を果たすための支援をすることを目的とします。

- ①町内のすべての児童を受け入れるため、認定こども園を新設します。
- ②乳幼児から学齢期までの子どもの「遊び・学び・ふれあいの場」としての居場所を提供するため、子ども子育て拠点と位置付けている「御船町子育てふれあい館」を改修整備します。



みんなでおでかけ楽しい!

寄附の
具体的な
メリット

御船町では、未来を担う全ての子どもの健やかな成長をサポートするため、子育てしやすい環境を整備し、さらに活気あるまちづくりを目指しています。将来を担う子どもたちのため、企業様のご支援をお願いします。

●その他の寄附事業に関しましては、最寄りの肥後銀行までお問い合わせください。